※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１３

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学 A	単位数	１単位	年次	１年前期
使用教科書	高等学校　数学 A　（数研出版）						
副教材等	４プロセス　数学Ⅰ＋A（数研出版）　チャート式　数学ⅠA（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→過程を振り返ってよりよい解決法を考える」といった一連の過程を重要視します。
・問題集用のノートを用意してください。
問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習で各自問題を解き進め、それらを課題として提出してもらいます。日々努力を積み重ねて、あきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

・場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
・事象を数学的に考察する能力を養う。
・数学のよさを認識し、数学を活用する態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・「事象を数学化し数学的に解釈する」「数学的に表現・処理する」などの技能を身に付けている。	不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見出し，数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用し，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	場合の数	集合の要素の個数 場合の数 順列 組み合わせ	a: ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し，順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 b: ・事象の構造などに着目し，場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 c: ・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用し，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善しようとしている。	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
	確率	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行と確率 条件付き確率 期待値	a: ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し，独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し，簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 b: ・確率の性質や法則に着目し，確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断し，期待値を意思決定に活用することができる。 c: ・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用し，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善しようとしている。	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用